

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100383		
法人名	有限会社 ともゆきの家		
事業所名	グループホーム ともゆきの家		
所在地	岡山県備前市麻宇那吉井763-1		
自己評価作成日	平成22年3月19日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3371100383&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添ったケアの頻度は多いと思われる。
職員も、利用者も笑いある楽しい生活を心掛けている。
互いに助け合える共同生活を意識出来るよう声かけをしている。
入居者様の家族から家庭的な家族ですとお言葉を頂き、職員全員が嬉しさを受け止めております
今後も入居者様、ご家族に満足いただけるよう、努力して行こうと団結しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「やっぱり好きな物はよく知ってる。好物の酢の物や果物だとずっと食べてくれるなあ」重度化の為、殆ど言葉のなくなった人の食事介助をしながら、職員が笑顔で話し掛ける。寝たきり状態になっても食事の時にはリビングに出て来て、皆のざわめきの中で一緒に食事する。品数が多く美味しい食事は当ホームの特色だが、手厚い介護で、食べる楽しみはずっと変わらず継続出来ている。グループホームでの支援の限界を越えながら受け皿のない現状に直面した代表者は、この度全室個室ユニットケアの新型特別養護老人ホームの開設に踏み切った。グループホームでの経験を活かした新しい感覚の運営に期待している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を壁に掲げ、理念が取り組まれている。支援計画を意識したケアを取り組んでいる。	理念と社訓を事務所に掲示し、ミーティングでも話し合い、日々の支援に活かす様心掛けている。常に愛情と尊敬の心を持って利用者に接する様、職員に伝え、毎年年度目標を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の夏祭りに近隣者の参加があり、幼稚園児との交流や地区の夏祭り、秋祭りなどに参加し子供との交流等ある。	ホームは地域の一員として町内会に加入し、代表者は地区役員を務め、回覧板が回ってきて、近所の人から野菜や花の差し入れがある。地域の行事や祭りに積極的に参加し、祭りの御輿がホームに立ち寄る等、自然な交流が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の事業所体験など、認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、サービス提供状況や、事故等について報告し、現在取り組んでいる事等について報告し意見を頂いている。また地域との連携についての意見も頂いている。	民生委員・家族・市介護保険課又は地域包括支援センター職員・自治会会長・他事業所職員等が出席して、運営推進会議を開催している。ホームの状況等を説明し理解を得ているが、今後は定期的開催を目指したいと考えている。	たまにはホームの行事と運営推進会議を同時開催してみても如何だろう。出席者にも利用者と共に行事を楽しんで貰えば、現状がより深く理解出来るそうだ。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き、利用者の日常の様子を見て頂き、必要な助言をもらうなど連携を深めている。	何かあればその都度市町村に相談して、指導・助言を受けている。市町村担当者は毎回運営推進会議に出席してホームの状況を把握し、より良いサービス提供を目指して共に連携出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して職員の共通認識を図っている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど、安全面に配慮し出来るだけ自由な暮らしを支援している。	身体拘束や虐待は絶対してはいけない行為である事を全職員に徹底し、虐待防止法についての研修を実施し、言葉による拘束等についても具体的にミーティングで話し合った。行き届いた見守りで玄関施錠もなかった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について勉強会を行い、職員への理解を促し、尊守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネは学ぶ機会があるが、今後他職員の研修や学ぶ機会を持ち、知識を広めていきたいと思っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や、予測されるリスク、重度化や見とり介護についての家族の希望と事業所の対応方針医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご要望は、出来るだけその場で解決し他の職員に申し送る。ご家族様には、面会時や電話連絡時にご意見いただき、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。	面会に来た家族と話し合ったり、必要に応じて電話で相談して、家族の意見を聞くよう努めている。運営推進会議には家族も出席している。公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見はその都度、又は、ミーティング時に聞き全職員と考え、決める。	朝夕の申し送り時等、その都度気付きを話し合っているが、毎月定期的に全職員参加の会議を開催して検討している。会議には余程の事が無い限り休みの職員も出席して、活発に意見交換出来ている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持ち働けるように、人事考課を行って評価している。また職員の疲労やストレスについて気を配るようにしているが、本心がどうなのかは明確ではない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が、外部、内部研修に参加できるように計画を立てている。研修参加後は研修報告を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム協議会に加入し、研修など通して、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、今迄の生活状態の把握に努め、本人や家族の要望や不安を理解するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過、経緯について出来るだけ詳しく伺いこれからのサービスに繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時ご本人や家族の思い、本人の状態等を確認しより良い方向が見出せるよう支援している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が何が出来るか、どう支援すれば出来るかを全職員が協議し関わって行く様にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお便り等で、日々の生活状況を情報提供し、家族に無理のない範囲で協力を仰いでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店にお連れしたり、墓参り、自宅外泊、外出、来訪、電話、手紙等、家族の協力を頂きながら馴染みの関係が途切れないよう支援している。	近隣出身者が多いので、散歩に出れば知人に会い、近所のスーパーに買い物に行けば馴染みの店員から声を掛けられ、顔見知りや慣れ親しんだ土地との触れ合いがある。近くのお大師さんへのお参りを楽しみにしている人もいます。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに支えあつて生活が出来るよう何気ない声掛けでより良い環境作りに配慮している。また臥床生活で孤独を感じることもないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのホームでの暮らしぶりや、支援内容など情報提供して連携に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から本人の思いをくみ取り把握に努めている。困難な場合は、家族に聞くなど出来るだけ検討している。	喉が乾いたら「お姉さん、お茶一杯下さい」と職員に言い、あんま上手の人は職員が肩凝ったと言っても「肩凝ったって、あなたには何もしてあげません」はっきり断る。利用者達は遠慮なく意思表示出来ていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや、アセスメントを見直しながら、日々の会話や来訪時の家族からの情報により利用者の支援に役立てるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の行動や、小さな動作から感じ取り、できることに注目し、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンス等で担当職員や、看護師の意見を取り入れ、ご家族の意見もお聞きした上で介護計画を作成している。	本人・家族から管理者・計画作成担当者がよく話を聞いて、情報を職員に伝え、皆で相談しながら介護計画を作成し、全員で様子を見ながら検証している。何かあればその都度、定期的には3ヶ月に1回プランを見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護サービスの記録を細かくホーム独自のサービス提供表に記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年、インフルエンザの問題で地域に出る機会は少なかったが、次年度は隣の地域の文化祭や地区の保育園への訪問を行いたい。地域資源との協働はあまり出来ない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意志をまず尊重している。ご家族対応が望ましいが、忙しい、あるいは遠方、という場合は職員が対応し、報告を行っている。	家族が受診介助している人もいるが、そうでない場合はホームが受診支援を行い、必要に応じて家族にも同行をお願いしている。受診は基本的にホームでしているの、それぞれの主治医との関係も構築出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を確保しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた対応が出来るようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による機能低下を防ぐため、医師と話し合い事業所内での対応可能な段階で早期に退院できるようアプローチしている。入院中も必要に応じて援助を行い、家族の負担の軽減をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じて家族と話し合いを行い、その都度看取り同意書で意思確認を行っている。また、事業所が対応できる内容についてもその都度説明をしている。	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族や主治医の協力も得られるならば、職員ともよく相談して出来る限りの支援をしたいと考えている。現時点までにおいては、該当するケースがなく、ターミナル支援の経験はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度家族に説明をし、終末期はどのように過ごすか、かかりつけ医と連携をとりながら、緊急時の対応については、マニュアルを整備し職員はいつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。又、内部での避難訓練では、消化器の使い方などの説明を行っている。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、消防署の協力を得て、利用者も参加した避難訓練を実施し、専門的立場からの指導・助言を受けた。居室のカーテンを燃えにくい素材に交換し、火災報知機も設置する予定である。	運営推進会議で災害時の地域との協力体制について話し合ってみては如何だろう。運営推進会議で避難訓練を実施しても良い。実情を理解して貰い、いざという時の対応を共に考える事は、とても重要である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した声かけや雰囲気作りをし、不安を取り除くよう寄り添って話を聴くよう職員は心掛けている。	“グループホームともゆきの家の仲間”利用者一人ひとりを紹介する紙芝居を見せて貰った。チャームポイントは素敵な笑顔とか、洗濯物を畳むのが仕事等、その人の得意や良さを披露した愛情溢れる内容だった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゲーム、手伝い、散歩等思いを表出しやすい場面を作っている。拒否も自己決定なので、参加を強要はしない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、その時々利用者の気持ちや状態に合わせて生活が出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを尊重している。本人本位のケアが一番大切で、それがないとケアも難しい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	複雑なことは出来ないが、台拭き、膳拭き、食器拭き、下膳等出来ることはしている。	美味しい食事は当ホーム最大の売りで、利用者達の楽しみである。介助の必要な人の傍には職員がついて、お洒落に盛り付けた一汁六菜の食事を皆で談笑しながら食べていた。「何時もこれ位あるよ」利用者達は皆よく食べる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量を個別に記録し食事が進まない方には、ご本人が好きな物や食べやすいものを食べてもらっている。病気、活動量、咀嚼能力にあわせて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方については毎食後声かけ、見守りを行っている。出来ない方については職員の介助のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2～3時間毎の誘導、5名、3名自立、全介助1名一人一人のパターンを把握し申し送りもしっかり行い失敗をなくす支援に努めている。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声をかけトイレ誘導出来ていた。トイレまで廊下に行くのがりハビリ、出来る限り車椅子を使用せず手引き歩行で「頑張れ、がんばれ、1・2・3」手厚い支援が出来ていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、個別に排泄管理している。たとえば牛乳や、ヨーグルトを食してもらうことで、自然排便へとつながるようにしている。医師処方の下剤を個々服用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則入浴は3時過ぎから夕食前までとしているがいつでも本人の希望に添えるようにしている。またバイタルチェックやその時の状態で清拭、や部分浴などの対応もしている。	ゆず湯や菖蒲湯等、季節感を感じながら楽しく入浴出来る様工夫している。入浴拒否の場合も無理強いせずに、タイミングをずらせたり、人を代えて声を掛ける等配慮して、その気になるよう誘っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や、散歩で日中の活動を促すと共に一人ひとりのペースで休息や、就寝時間が決められるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用を聞く入居者様はおられないが職員は常に症状の変化に気を付け、協力医との連携を取り、慎重に服薬支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえ(皮むき等)洗濯物を干す、タタム、等一人ひとりの得意分野で力を発揮して頂けるよう職員は、声かけやサポートしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周辺を散歩したり、テラスでお茶を飲んだりしている。また、職員と一緒に買い物に出かけたりしている。	日々の散歩や買い物以外に初詣・花見・紅葉狩り等の季節行事や、公民館夏祭り・地区収穫祭等、地域行事にも出掛けている。他事業所の行事や近隣の道の駅へのドライブ等、フットワークの良い外出支援が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はしていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を掛けてもらったり、要望が上手に伝えられない利用者には、職員から声をかけて電話を使用して頂くなどしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幼児的にならないように、季節の飾りを配置し、季節感を感じられるよう工夫している。	民芸調置物や季節の花・日本人形等を飾り、親しみ易い雰囲気が漂っている。食卓以外に一段高い畳の間や長ソファ・ウッドデッキのベランダのイス等、その時々で寛げる居場所があちこちにある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間があまり広くないので今後の検討項目とする。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で出来るだけなじみの物を用意してもらうように声かけしている。仏壇、テレビ、タンス等努めて希望する品を揃えて頂いている。	窓からの眺めもよく明るい感じがする。タンス・テレビ・イス・机等を持ち込む人や、お気に入りのマスコットを飾る人・仏壇を持ってきている人も居て、どの部屋もその人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「便所」と目印をつけたり、居室の入り口に名前を書いて、利用者が間違えたり混乱することを極力抑えている。		